宮城民医連
東日本大震災

災害復興ニュース

ニュース　=第５５号=
発行日　２０１１年6月17日
発行　宮城民医連

あまりにも大きな被害に、ただ涙を流すだけでした

宮城・なるせの郷
佐々木直樹さん

東日本大震災を振り返って

左奥が”なるせの郷”右が体育館（3月11日佐々木さん撮影）

3 月 11 日（金）14 時 46 分に宮城県南三陸沖を震源とするマグニチュード 9.0 の巨大地震による激しい揺れと大津波が日本列島を襲いました。

私の職場は宮城県東松島市野蒜地区に所在する『なるせの郷デイサービス』です。当日は勤務が休みだった為、自宅で地震にあいました。被災後、職場への電話も職員へのメールも十分に通じない状況だった為、家族の安否を確認した後、15 時 45 分頃には職場に向けて自宅を出発しました。

車のラジオで、大津波警報や震源地の情報を確認しながら、職場に向かいました。途中、川沿いの道路に入ると、川の流れが逆流している事に気付き、車や家屋が流されてきた状況を見た瞬間、私は車のハンドルを握っている手が震えている事に気付きました。

海岸に近い職場の事を考えると、ただただ職員や利用者さんの無事を祈りながら急ぎました。16 時 20 分ごろに雪が降る中、『なるせの郷デイサービス』の近くにある野蒜小学校付近に到着しました。その時、私が目にした光景は、大地震 による大津波で流された家屋や車、浸水した道路、小学校の校庭、流されてきた車のクラクションが鳴り響き、助けを求める人々の声で現場は騒然としていました。大地震と大津波の被害の大きさに愕然とし、言葉も出ませんでした。その後、松島町の新富亭というホテルで、避難していた松島海岸診療所の利用者と職員と合流しました。

3 月 11 日のことを記録に残したいと寄稿して下さった佐々木直樹さん

3 月 11 日当日、『なるせの郷デイサービス』を利用されていた利用者さんや職員の安否確認などの行動を他の職員と行いました。その結果、無事だった職員や利用者さんもいましたが、残念ながら３名の職員と 12 名の利用者さんが地震による大津波で亡くなられました。私は、あまりにも大きな被害に、ただ涙を流すだけでした。

東日本大震災から３ヶ月が経ちましたが、まだ、あの日より時間が動かず、止まっている様に感じる時もあります。今後、私は３月 11 日・東日本大震災の事を忘れずに、亡くなった方々の冥福を祈り、共に『なるせの郷デイサービス』で過ごした思い出を大切にして、困難な道のりではありますが、少しずつ仕事を通じて、地域社会復興の為に活動していきたいと思います。最後になりますが、被災後に全国の民医連の支援隊の皆さん関係者の方々より、たくさんの支援や温かい励ましをいただきまして、この場にてお礼を述べさせていただきたいと思います。本当にありがとうございます。

”なるせの郷”近くの野蒜小学校体育館では多くの方が亡くなられました

東日本大震災では、死者 15,405 人、行方不明者 8,095 人、避難者 90,109 人。

宮城県では死者 9,214 人、行方不明者 4,913 人、避難者 23,532 人でした。
（6 月 10 日警察庁まとめ）

亡くなられた一人一人に家族がいて、生きてきた歴史があって、愛する人がいて、誰かに愛されていた。そして夢や希望があったことを私たちは決して忘れません。

（宮城民医連　神馬　悟）

この震災で亡くなられた一人一人に家族がいて愛する人がいて夢や希望があった事を決して忘れません